

武汉大学留学報告



医学部 5 年 根本幸一

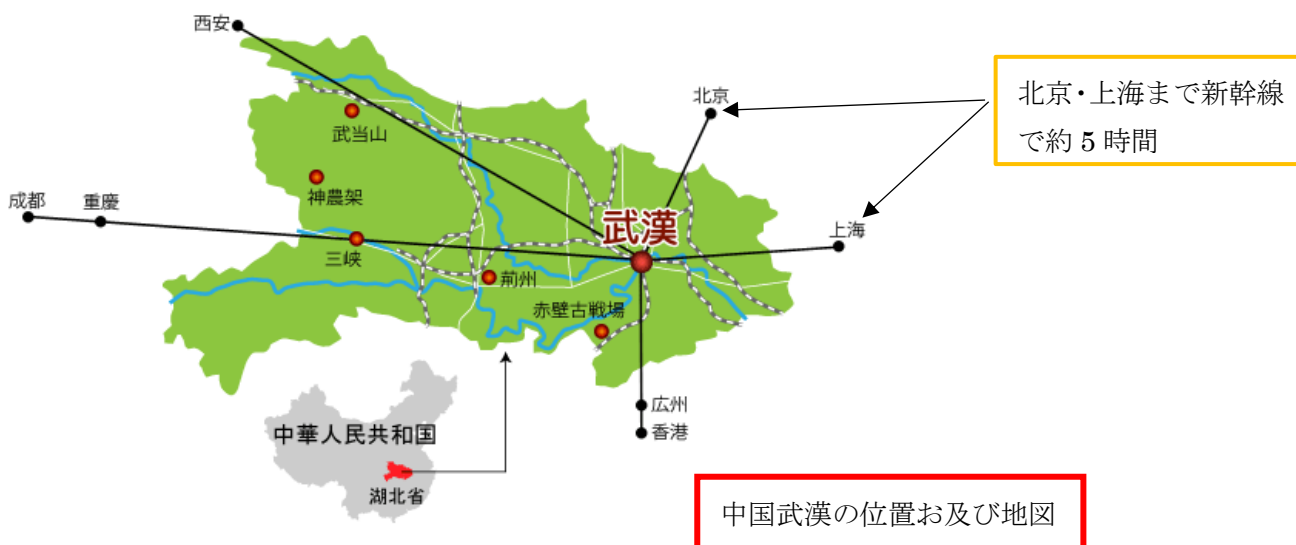
- はじめに

2018年2月26日～3月31日の約一か月の期間、福島県立医科大学の国際交流の一環として、中華人民共和国の湖北省にある武漢大学という大学に留学させていただきました。今回これを書くにあたって、留学を検討している人や興味がある人が良い印象を抱き参考にしてもらえたら幸いです。ここでは主に武漢及び武漢大学について、授業について、お世話になった解剖学講座について、現地の生活について、交流について、観光についてを私の感想とともにまとめています。

- 武漢について

武漢市は中国でも大きな市のひとつであり、長江とその支流である漢江の合流点にある武昌、漢陽、漢口の三つの区分から構成されており、とてつもなく大きな市です。長江中流地域最大のメガシティで、湖北省の省都および省内唯一の副省級市でもあります。また、中国有数の工業都市、文教都市及び交通要衝でもあることから市内は高層ビルが多数あったり、繁華街はだいぶ賑わっていたりと大都会でした。おそらく日本人が想像している市という概念からは想像することはできないと思われます。そして武漢市の面積の4分の1が水域面積であり、巨大な湖と長江があります。このように自然と都会が両方味あえる緑豊かな都会というイメージでした。

武漢は一年中を通して温和な気温と言われていますが、夏は40℃近くなる日があるほど暑くなると現地の学生に言われました。冬はたまに雪が降るが福島ほど寒いということではなかったです。しかし、現地で思ったのが冬の中でも寒暖差が激しいということです。日が出ていない日や雨の日はとても寒く、逆に晴れの日はとても暖かいといった印象でした。また大気についてですが、大気は日本と比べると大分汚染されているイメージでした。これも日によって変わります。良い日は遠くまで見渡せるほどきれいですが、汚い日は多くの建物が霞むほどです。晴れている日は花粉も飛んでいたと思います。





武漢の夜景をメインキャンパス側から東湖を挟んで撮った写真

- 武漢大学について

武漢大学は東湖と呼ばれる湖の近くにある大学で、メインキャンパスと医学部キャンパスの二つのキャンパスがあります。メインキャンパスには主に農学部、工学部、理学部、文学部と法学部に関係する学部が多数あり、医学部キャンパスには名前の通り医学に関する学部がいくつかあります。この二つのキャンパスは離れており歩くと30分くらいかかる距離がありました。最初のうちは遠いなど感じていましたが、何回か行くことで慣れました。

医学部キャンパスだけでもかなり大きくキャンパス内に病院の建物が7つはあり、そこに学生が住んでいる寮がたくさんあり、授業する建物が多数あるといった感じです。ここで日本と違うと思ったのが、学生のほとんどがキャンパス内の学生寮に住んでいるということです。日本だと8割くらいはアパート暮らしなのに対して、武漢では反対の8割がキャンパス内の寮に住んでいるということでした。このような事情であるということから、寮の数も我々の大学とは比較にならないほどたくさんあり、驚かされました。これはおそらく、中国西部および南部の優秀な学生がこの武漢大学に集まっているということがあり、多くの人がかかなり遠方からきていることあるためではないかと学生は言っていました。その中には帰るのに2日かかる人もいます。

医学部は基本5年制であり、5年で卒業し、医師になれるというのが中国です。しかし実際聞いていると多くの中国の医学生は卒業後3年間、日本でいうところの大学院に進学し、マスターを取る人がほとんどだそうです。今回武漢を紹介してくれた人の多くもマスター二年目という人は何人かいました。そういう面でも日本とは大きく違い、日本のカリキュラムではグローバルスタンダードじゃないので世界ではある意味医師として認めてもらえないという事実も納得いくと思いました。やはり日本の大学のカリキュラムも世界基準と同じようにし、遅れを取らないようにするべきではないかと思いました。



武漢大学メインキャンパスの正門

- 現地での学習について



解剖学講座の借りていた部屋

今回の留学では武漢大学の解剖学講座にお世話になっていました。解剖学講座の先生方は皆さんやさしく「なにかあれば相談してね。」「助けになるよ。」などときさくに話していただいてとても居心地がよい講座でした。講座に行った初日に留学生用のカリキュラムをもらい、「好きな授業にでてよいよ。」と言われ、様々な授業に参加させていただきました。自分が主に参加していたのは留学生用の系統解剖学の授業です。自分はこれ以外にも clinical biochemistry という僕らでいう検査のような授業や薬学の授業にも少し参加させていただきました。これらは一応英語の授業という形で紹介されて参加したのですが、clinical biochemistry の授業においては先生は英語が苦

手なのか、学生のほとんどが中国人なのかは知りませんが、授業の途中から、中国語になってしまい、何を言っているのか分からなくとも残念でした。

武漢大学では、1コマ45分で、1限が8時から始まります。1コマが短い分コマ数が多く、遅いと夜の8時まで授業しているコマもあるそうです。

私が主に参加した解剖の授業についてです。系統解剖の授業自体は英語でしたが、授業内容の多くはすでに学んだ知識であったので何となく理解することが出来ていました。また忘れていた知識やこんなのもあったのかということも少しあり、刺激を受けつつ意義のある復習にもなりました。主に骨や関節の授業だったのですが、2年生の時の解剖の単語を日本語だけでなく、英語でも覚えていたのが大きかったと思いました。私たちの授業と違うなと思ったのは一つの骨について詳しく学習するということでした。また解剖の授業を受講している学生のほとんどがインド人でした。驚いたのは、授業が始まって学生約7割は出席してなく、だいたいの学生が遅れてやってくるということです。そして遅れてくる人ほど授業中うるさく何回か先生に怒られている場面も見受けられました。もちろんまじめな学生もいますがあまりにも少ないというイメージでした。授業のレジュメは配ることもなく、レジュメが欲しい人は1限と2限の間に前のパソコンに行き自分のUSBにコピーするという形でした。様々面で自分達が受けている授業形態とは違う良い経験ができました。



普段は学生証がなく入れないのですが、図書館もあり、一度入った時は多くの中国人の

方たちが勉強していました。その点は日本の医学部と同じなのかなと思いました。そして、図書館はとてもきれいで勉強できるスペースが多くあり、学習環境が整っているなど思いました。

- 現地での生活について

私たちは迎賓楼と呼ばれる、寮ではなく、医学部の留学生用宿舎に滞在していました。今回男一人ということもあり、一人で部屋を使うのかと思っていましたが、そうではなく、フランス人のルームメイトがいてとても驚きました。しかしこんな経験2度とないと思い大変貴重な経験をさせていただきました。そのルームメイトの名前はニコラなのですが、とても気さくで優しく1か月間とても楽しく二人で過ごしました。ルームメイトがニコラで本当に良かったと思います。



ルームメイトのニコラとの写真

迎賓楼についてです。部屋自体は汚いということもなく、過ごしやすい環境だったと思います。ほこりを気にする人はその対策をしていった方がいいと思います。洗濯機も一部屋に一台あるのですが、洗濯機を使うと排水管がつながっているはずなのに若干水が漏れるという事態が多々発生しました。シャワーは勢いも強く不自由なく使えて快適でした。これは現地の人からも言われたのですが、水道水は絶対に飲んではいけないと言われました。でしたので、自分は5Lの水を買い、それを歯磨きなどに使っていました。迎賓楼のWi-Fiの環境は悪くとても遅く使いものになりませんでした。匂いも気になるときはとても気になり、変なおいがる日がありました。いかに日本のインフラが整備されていて使いやすいのかを改めて実感しました。



左は最初の状態

上は 3 週間目くらいの生活感のある自分の部屋

食事については、迎賓楼のほぼ隣に食堂があり、何回も利用しました。しかしこの食堂の時間が朝は 7:00~8:30、昼は 11:00~12:30、夜は 17:00~18:30 と決まっており、自分達のペースとは違うことが多々あり使いづらいこともありました。しかも夜でい



何回も食べたチャーハン

うなら、18:00 くらいにいくとほとんどなくて選ぶことすらできない食堂でした。味についてですが、香料を多量に使っている印象でした。自分の口に合うものは少しありましたが、ほとんどが自分の口に合わないなと思い途中から使うのが億劫になってしまいました。自分のお気に入りを見つけるのが大事だと思いました。私はそういうこともあり、食堂ではなく多くを食堂とは違う学内のご飯屋さんで食事していました。このご飯屋さんを見つけるのが難しく現地の人に教えてもらわないとつけることはできなかったと思います。そこのチャーハンを何回もいただきました。他にも迎賓楼の近くに出店みたい雑貨屋さんみたいなのがいくつか並んでいるところがあるのですが、そこでも少し食べ物が売っ

ていて、その食べ物もおいしく何回か食べさせてもらいました。しかしここは常に食べ物が空気にさらされている状態なので、衛生面に関してはとてもいいものではないと思

ました。夜は時間があつたことからハンストリートと呼ばれる繁華街に行き、夕食を取ることが多かったです。このハンストリートは日本という竹下通りをすこし大きくしたところのような印象でした。このハンストリートにはほぼ毎日のように通いご飯を食べたり、観光をしていました。

普段なにもないときは解剖学講座の部屋で過ごしていました。そこでは動画を見たり、音楽を聴いたりとくつろがせてもらっていました。それ以外にもパソコンで自習ということで国試に向けてのビデオ講座を見ていました。授業以外にも勉強にあてる時間が多く良く勉強のできる環境でした。また、月曜水曜金曜はグラウンドでランニングしたり、火曜木曜は部屋で筋トレをしていました。土曜日にグラウンドに行くとサッカーの試合をしていたりと活気盛んなグラウンドでした。そこで中国人とボールを蹴ったりサッカーに混ぜてもらいました。たまたま平日に知り合った中国人には「この時計の設定をしてもらいたい。」などと会った時に言われて直したりしました。少し外に出るだけでいるんな人と関わりを持つことができるのだなと実感したのと同時に言葉の壁というのは大きいと思いました。



武漢大学医学部キャンパス内のグラウンド
人工芝で綺麗だった

- 交流について

現地に着した二日後から武漢大学の医学生に夕食に案内してもらえました。その日は

食堂の二階にある店でご馳走になりました。その時案内してくれたのが張さんと高さんという日本語のうまい人達で会話も弾みとても楽しめました。その方たちは留学中何回か誘ってくれているんな店に連れて行ってくれました。その一つが火鍋と言われるしゃぶしゃぶのような料理の店です。鍋に二種類のスープがあり一つを辛いのにしたのですが、おいしかったので食べていたらお腹を痛めました。肉はもちろん肉以外にも様々なものを鍋の中に入れて食べましたが、その中で驚いたのはカモの血を固めた固形物のようなものがあり、何とも言えない触感でしたが、味はおいしかったです。





医学部2年生の男子と

をしました。

武漢大学医学部2年生の方々に誘われて磨山という場所に連れて行ってもらいみんなでピクニックをしました。みんな気さくで話しかけてくれて緊張することなくわいわい楽しむことができました。そこでやったゲームで負けて、罰ゲームで歌ったこともいい思い出です。ピクニックのあとには小さい遊園地のような場所が隣にあり、そこでいろいろなアトラクションに乗り様々なスリリングな体験



フランスの方々と

い英語で話してくれるのでとても話やすかったです。しかもジョークが面白くみんなの会話もこの人のおかげで弾んでいました。女性のKathyは中国に5か月滞在していて鍼や灸などの伝統中国医療を学んでいるそうです。この人はとても回りに気を使える人でコロナとRegisがフランス語で話し始めたら、「Please in English」と言って二人に向けて言い、私たちにもわかるように英語で喋ってと何回も言っていました。そのおかげで飲んでいるときもほぼ全ての会話を英語でしてくれて少しではありましたが、自分の国についてや、自分について面白く話すこともできました。

左の写真は武漢大学に留学に来ているフランス人の方たちと夕飯を食べに行き、そのあと飲みに行った時の写真です。自国の民族衣装の話をしたり、タバコの話をしたりしました。一人は武漢にすでに10年もいて外科をやっている人で自分の隣に写っている人です。この人はRegisといいます。この人はとても優しくかつ分かりやす

他にも多くの方たちと交流させていただきました。グラウンドで知り合ったサッカーをしていた人々、審判をやっていた人には時計を直してほしいということで何回か呼ばれました。この人たちは英語がほとんど通じないので最初はいろいろ困りましたが、近くにいた学生が通訳してくれたりと助けてくれたのおかげで意思疎通を図ることができました。そして思ったのは笑顔でいることというのは大事なのだということもわかりました。これは外国人と接するときだけでなく、人と接するとき全般に言えることだと思います。笑顔でいるだけで知らない人達ともすぐに打ち解けることもできるのだということ今回様々な人と交流したことに気づかされました。

いろいろな人達と交流しましたが、みんながみんな気さくで優しく接してくれて驚きました。そして中国人のもてなしは日本ではここまでしないなというくらいもてなしてくれて、これは日本でも見習わなければならないところだなと思いました。どこか連れて行ってくれてもなんでもやってくれるし、食事についてもお金は連れて行ってくれた時は出すことはほとんどないといったことです。至れり尽くせりといった感じでした。そしておそらく日本人の多くが誤解していると思いますが、私もその一人でしたが、中国人は優しい人がほとんどです。何かある度に手伝うよと言ってくれたり、どこか行きたいところあるなら連れて行くよと言ってくれたりととても心強い人たちでした。今回の留学を機に中国人に対する見方が大きく変わりました。

● 観光

今回の留学中は勉強の合間に観光もたくさんさせていただきました。その一部を紹介したいと思います。

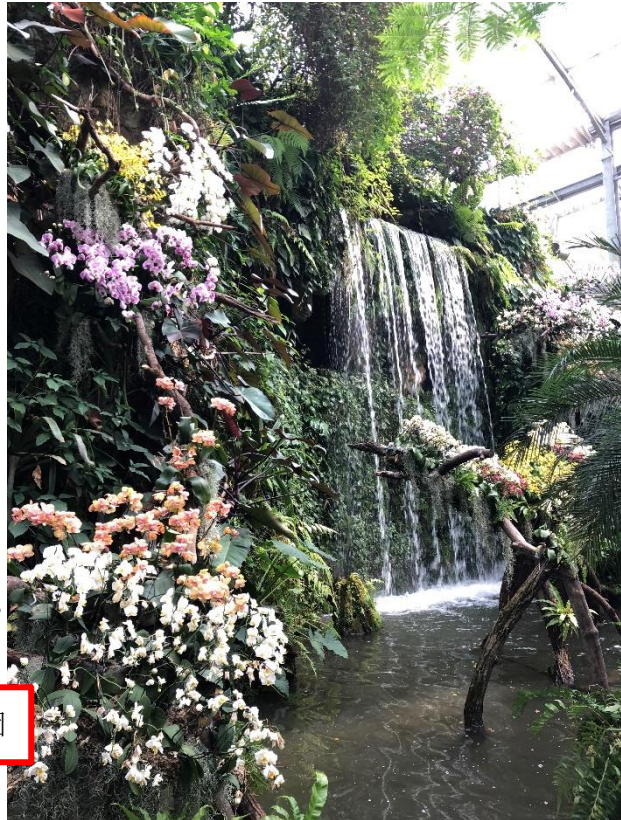


左の写真は武漢の有名観光スポットである黄鶴楼です。この建物は李白の代表的な漢詩「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」の名で知られる建物です。三国時代に孫権が軍事目的で建てたのがこの建物の始まりです。しかしそれから、何度も消失や倒壊を繰り返されて今の姿になったと言われていいます。この五重塔が黄鶴楼の象徴とも言えるものですが、初めは五重もなかったそうです。この黄鶴楼にはウォンさんとその友達に連れて行ってもらいました。その方たちの中に現在新潟大学に在籍している中国人の方もいて通訳のようになってもらいました。

黄鶴楼の五重塔



上の写真と右の写真はニコラの研究室の人々に連れて行ってもらった武漢植物園の写真です。世界の様々な種類の植物から身近な植物までいろんな植物がたくさんありました。大変綺麗でした。



武漢植物園



戸部港

上の写真は戸部港という場所に行ったときの写真です。ここはたくさんのお店が並んでおり、様々な種類の料理を楽しむことができました。アイス揚げたようなものや、鴨の皮やリンゴ飴のようなフルーツを加工したものなどいろいろありました。どれもおいしくお腹いっぱいになるまで食べてしまいました。ここは武漢の中でも私が推すおススメスポットです。しかしいつ来ても大勢の人で混んでいるのでとても大変でした。



長江からの景色

左の写真は長江を船で渡った時の写真です。やはり中国の二大河川といわれるくらいの大きさがありそのスケールに圧倒されました。また船の上から武漢市内のビル群を見ることができるのですが、それも日本のものとは大きく違っていました。ま

ず、高層ビルの数が多い。そして、電工装飾がビルを跨いで、まるで一つの絵になるように表示されているところです。規模がなにもかも違うなどこのようなところでも感じました。今回中国に滞在して思ったのが、電気装飾がとても多いなと思いました。夜でも至る所でライトアップされていたり、しなくてもいいのではと思うところまで装飾されていて、どれだけ電気を使っているのだろうと思いました。



メインキャンパスの桜並木

最後に紹介するのが武漢大学メインキャンパスにある桜の木々です。武漢大学のメインキャンパスの桜並木は武漢でも有名な観光スポットにもなっている場所です。200メートルほどの桜並木に1000株以上の桜が植えられています。これほど多くの桜があるのは田中角栄が日中友好の印として送ったという一説があります。私たちが行ったときはちょうど桜が満開になる頃に滞在できたのでこの桜並木を鑑賞することができました。行ったのが日曜日というのもあり、観光客で武漢大学内の桜が有名な場所はあふれていました。実際大変綺麗なもので、もし武漢に桜の時期に行くのであれば一度は鑑賞することをオススメします。

● 言語について

今回の滞在で大きく実感したのは言語の壁についてです。私は全くと言っていいほど中国語を話すことができません。基本会話の始まりくらいであれば何となく話せるくらいです。普段武漢大学内で学生や教職員と話ときは英語が通じるので英語でなんとか話すことは可能なのですが、学内でも食堂や売店など学生や職員以外と英語で話そうとしても全く通じませんでした。これにはとても困りました。なんとか翻訳機を用いて会話をしたりしましたが、それでも誤翻訳があったりで通じないときが多かったです。また学外に出たらほとんど英語は通じなく、同伴してくれる学生がいる時以外はとても大変な思いをしました。やはり郷に入っては郷に従えでその国に来たらその国の言語をしっかり勉強をしてから行くのがベストなのだということをとっても実感しました。

英語についてです。結論から言うと英語の会話力はこの留学大きく成長したな思いました。私の英語力は一般会話くらいならなんとか話せるくらいのレベルです。それに関してはそんな変わらないのではないかと思います。会話における応答の速さや理解度が毎日のように英語を話すことで成長していると実感しました。武漢大学の学生の多くが英語を話すことができ、だいたいの会話を英語でしていたのがとても大きかったのではないかと思います。またルームメイトのニコラも英語はペラペラで部屋でも英語を話していたのも大きかったと思います。やはり英語に触れる機会が増えれば増えるほど英語力というの

は伸びるのだと思いました。それでもすぐには言いたいことや思っていることを英語で表現できないときは多々あり、とてももどかしく思いました。それと同時に英語がすらすらと話せるだけでいろんな人達といろんなことを話せることができるのだとも思いました。またこれからさらに国際化が進む中で英語という共通言語はさらに重要になってくると思います。Regis には、「日本人は英語話すことを億劫になっている。」「もっと恥ずかしながら自身を持って喋れ。」「間違ってもいいのだから気にするな。」と言われました。確かになんか言いたいことがあってもうまく言えることができなそうと思うと英語で質問したり意見を言ったりすることをやめていた時は多々あったと思います。しかしそれでは英語は上達しないということを思い知らされました。上達する近道は間違ってもいいからとりあえず英語で話すということだと思いました。これは言語に限ったことではないと思います。この経験を機に英語を話す機会があれば自ら積極的に話していこうと思いました。そのためにも日々英語の学習は怠らないように続けていこうと思いました。

- おわりに

最後になりますが、今回の留学を手配して下さった方々福島県立医科大学の方々及び武漢大学でお世話になった方々にお礼を申し上げます。ありがとうございました。今回の留学を今後の医師としての人生に還元していきたいと思えます。